

2021年8月31日
三菱電機株式会社

NEWS RELEASE

温室効果ガスおよび資源投入量の削減など主要な目標を達成 三菱電機グループ「環境ビジョン 2021」完遂のお知らせ

三菱電機株式会社は、2007年に策定した2021年を目標年とする「環境ビジョン 2021」について、主要な目標を達成しましたのでお知らせします。

「環境ビジョン 2021」は、持続可能な社会の実現を目指し、当社の創立100周年を迎える2021年に向けて、技術と行動で人と地球に貢献することを指針として掲げ、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然共生社会の実現」の3つを活動の柱にした長期環境ビジョンです。

今後は、2050年を目標年とする新たな長期環境ビジョン「環境ビジョン 2050」のもと、脱炭素社会の実現をはじめ、さまざまな環境課題の解決に向けて新しい価値の創出に挑戦し、持続可能な未来の実現に貢献していきます。

三菱電機グループ「環境ビジョン 2021」掲載 URL

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/report/pdf/2021/04.pdf>

三菱電機グループ「環境ビジョン 2050」掲載 URL

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/vision2050/index.html>

環境ビジョン 2021 の成果

1. 温室効果ガスおよび資源投入量の削減など、主要な目標を達成

- (1) 低炭素社会実現：製品使用時と生産時の両方で、温室効果ガス（CO₂）の排出を低減
製品使用時の温室効果ガス（CO₂）排出量は、省エネ製品の技術革新と普及などにより、目標30%削減を上回る36%削減^{*1}を実現。また、製品生産時のCO₂排出量は、継続的な省エネ投資を各製造拠点で計画的に実施し、目標30%削減を大きく上回る56%削減^{*2}を実現。
- (2) 循環型社会形成：プラスチックや金属などの資源投入量、水使用量および廃棄物排出量の削減
資源の有効利用については、廃棄物の最終処分率を指標とし、国内では目標0.1%未満に対し、0.02%を達成。海外では目標0.5%未満に対し、0.15%を達成^{*3}。
資源投入量は、製品の小型軽量化を進め、64製品群における平均削減率は目標の30%を上回る43%^{*1}を達成。また、水の使用量削減については、2010年度から国内外拠点の水使用量・再利用量を継続的に計測し、有効な事例を水平展開することにより、基準年度の2010年度比で売上高原単位を10%（年率1%）改善する目標に対し20%改善を実現。
さらに、使用済み家電製品から回収したプラスチックを自社の家電製品に再利用する自己循環リサイクルの拡大に向けて、プラスチックの再生技術を進化させ、家電リサイクルにおける混合プラスチックを高純度プラスチックに再生する比率を、2010年度時点の6%から80%まで向上。
- (3) 自然共生社会実現：事業所の生物多様性保全活動を本格化
「みつびしでんき野外教室」「里山保全プロジェクト」の2020年度末時点での累計参加者数を51,000人以上とする目標に対して、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で集合形式の活動を見合わせた結果、累計48,872人の実績となり、目標未達成。「事業所の生物多様性保全活動」は国内全24地区で実施する目標に対し、全ての地区での活動を実施し、目標達成。

環境ビジョン 2021 の目標と実績^{※3}

分類	主な活動項目		評価指標	目標	実績	結果	
低炭素社会	生産時の CO ₂ 排出削減		CO ₂ 換算排出量	30%削減 (52 万トン)	56%削減 (116 万トン)	達成	
	製品使用時の CO ₂ 排出削減	省エネ性能向上による製品使用時の CO ₂ 排出削減	平均削減率 (2000 年度比)	30%	36%	達成	
循環型社会	資源有効活用		最終処分率	国内	0.1%未満	0.02%	達成
				海外	0.5%未満	0.15%	達成
	資源投入量の削減		平均削減率 (2000 年度比)	30%	43%	達成	
自然共生社会	「みつびしでんき野外教室」 「里山保全プロジェクト」の 継続開催		2007 年度からの 累計参加人数	51,000 人	48,872 人	未達成 ^{※4}	
	事業所の生物多様性保全		実施地区数	全 24 地区	全 24 地区	達成	

※1 基準年は 2000 年度

※2 基準年は 1990 年度

※3 社会情勢や事業環境の変化に伴い、当初計画から一部目標と取り組みを見直し、または削除

※4 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初の計画より開催回数を大幅に削減したことが影響

2. 継続的な活動が評価され、CDP を始めとした社外機関から多数の評価を獲得

環境ビジョン 2021 では、3 年ごとの環境計画を策定・遂行し、社内で定めた環境に関するさまざまな指標に対する評価、および定期的な計画や施策の見直しを三菱電機グループ全体で推進しました。また、これらの取り組みの継続的な社外への情報発信も進めた結果、外部評価^{※5,6}による環境格付で高い評価を獲得することができました。



※5 国際的な非政府団体 CDP から「A リスト企業」に選定

CDP：企業や都市の環境への取組を調査・評価・開示する国際 NGO（非政府組織）

※6 SBT(Science Based Targets)イニシアチブの認定取得

SBTi：国連グローバル・コンパクト（UNGC）、世界自然保護基金（WWF）、CDP、世界資源研究所（WRI）による国際的イニシアチブ

今後の展開

今後は、2019年6月に策定した、2050年を目標年とする長期環境ビジョン「環境ビジョン2050」のもと、「多岐にわたる事業を通じて環境課題を解決する」「次世代に向けてイノベーションに挑戦する」「新しい価値観、ライフスタイルを発信、共有する」という3つの行動指針を掲げて取り組んでまいります。

環境課題の中でも社会的な注目度の高い脱炭素社会の実現に向けて、バリューチェーン全体での温室効果ガス排出量の削減、およびパワーデバイスの高効率化と普及等による温室効果ガス削減貢献量の拡大を推進し、2050年の排出量実質ゼロ^{※7}を目指します。また、廃棄物発生源の見える化による廃棄物量削減の目標管理、リサイクル処理業者の調査・情報共有等の取り組みを通じ、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現にも取り組みます。

※7 2021年6月に目標値を更新

「環境報告2021」公開

三菱電機グループの2020年度の環境経営の取り組み成果を「環境報告2021」として、三菱電機オフィシャルウェブサイトで7月27日に公開しました。

2018～2020年度の活動目標を定めた「第9次環境計画」では、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然共生社会の実現」などを重点推進項目として掲げています。計画の最終年度である2020年度は、生産時CO₂の排出削減や資源投入量の削減など各項目において、年度計画をほぼ達成し、第9次環境計画の目標達成に向け計画どおりに推移しました。

三菱電機グループの「環境報告2021」掲載 URL

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/report/index.html>